

## 令和元年度第1回 鳴門市児童福祉審議会 会議概要

日時 令和元年8月1日(木) 15時30分～

場所 市役所本庁舎3階 会議室

出席者 委員13名、関係課・事務局職員12名

欠席者 委員4名

傍聴者 1名

### 概要

#### 1 開会

#### 2 市長あいさつ

#### 3 会長あいさつ

#### 4 委員自己紹介

#### 5 審議会への諮問

泉鳴門市長から審議会に対して諮問を行いました。

#### 6 議事

##### (1) アンケート調査結果の概要について(前回調査との比較を踏まえて)

アンケート調査結果の概要について、事務局より説明を行いました。

特に質疑なし

##### (2) 子ども・子育て支援事業計画の施策・事業等にかかる実績等について

子ども・子育て支援事業計画の施策・事業等にかかる実績等について、事務局より「既存・統計データからみる状況」及び「現行計画の進捗状況」の説明を行いました。

###### (委員)

今後も人口が減少していくという推計が出ているが、何か対策はあるのか。

###### (事務局)

平成31年までの実績からコーホート変化率法を用いることでこの推計を出しているが、子育て支援策等を充実させ、この減少を少しでも抑制していきたい。また、これから議論していただく支援策等を周知・利用していただくことで、より住みよい街づくりとなるように考えている。

###### (会長)

全国的にもこの(減少)傾向があると思うが、全国との比較などはあるのか。鳴門市は減少率が急なのか、逆に緩やかなのか。

**(事務局)**

全国との比較データは無いが、市として人口減少に何とか歯止めをかけようと、「総合戦略」等を策定し、各施策を展開している。

**(委員)**

病児・病後児保育事業のことで、計画などがあればお伺いしたい。お子さんの預けたい年齢というのが1歳までというニーズが非常に増えているというデータが出ている。女性の就労、これからもすごく増えていくと思う。いまの時点でこれだけ0歳児の保育希望があるということは、やはり、熱が出たとき等にどうしても子どもさんをみてもらう人というのが必要になってくる。資源として病児・病後児保育をしてくれるところが複数あれば、ありがたいのかなと感じている。

子どもが1人熱を出したら、1週間くらい、どうしても様子を見ることになると思う。兄弟姉妹等2人おいでる家というのも多いかと思うので、やはり半月くらい、時間休をとったり、休んだり、私の職場にも結構いるが、病児保育の方がいっぱい、連続してお願いできないからと、かなり苦勞をしていた状況もある。

計画の中で、1つ、どこか可能性があれば、どうかという検討させていただく機会があれば、そこで検討いただければと思う。

**(委員)**

預けられる側の祖父母も、働いている方が多い。「孫を預けてくれるのはありがたいが、働いているために、孫をみるのも大変だ」という声も聞く。「共働き家庭が増えている」とのことだが、不景気から、「働かなければ食べていけない」という現状があるのではないかと。そして、その「不景気」が、結婚の妨げとなり、子どもの数の減少にも繋がっていているのではないかと。経済的支援も含めて、子育てをサポートしていただければと思う。

**(委員)**

病児・病後児保育については、実施施設が複数あれば理想的であると思うが、もし実施するのであれば、1箇所でも10人～15人をまとめて受け入れできる規模の病院でなければ、インフルエンザの流行期などは、とてもまかないきれないと思う。

夏場などの需要の低い季節であっても、看護師等を常時雇っておく必要がある病児・病後児保育については、行政が主体となり、10人や15人程度を一度に預かれるような方策を考えていただきたい。

**(事務局)**

病児・病後児については、現在「木のおうち」1箇所に対応している。年間で290日程度事業を実施(各日の定員3名)している中で、満員となった日は22日程度である。病気の流行期等は需要が高くなるが、年間を通しての需要の差が大きい一方で、看護師や保育士は常時配置しておく必要があり、どれくらいの供給量を見込むべきかの判断が非常に難しいことが1点。そして、「預ける側」からすると、やはり専門の医者が常駐している方が安心であると思う。医師会と相談して専門の医者を常駐させることが、現在の「市の仕組み」としてできるかどうか、がもう1点。

以上の2点が課題としてあり、事業として広がっていないのが現状である。

### (3) ニーズ量の算出結果について

子ども・子育て支援事業計画に掲載する「量の見込み」について、事務局より、4つのパターン結果の説明を行いました。

#### (事務局)

10月からの無償化が無ければ2パターンの検証で済むのだが、保育料無償化はニーズ量に大きく影響を及ぼすであろうことから、①アンケート結果より無償化を反映する場合、②アンケート結果より無償化を反映しない場合、③実績の最大値をとる場合、④実績の平均値をとる場合、の4パターンを示した。

とりあえず今回は算出結果の提示のみで、次回以降、「このサービスはこの根拠により、この考え方をとるのはどうか」という提案をしたいと考えている。

#### (会長)

次回事務局案を出す場合は、しっかりした根拠を示して説明してほしい。

### (4) 第2期計画の構成について

第2期鳴門市子ども・子育て支援事業計画の構成案について、事務局より説明を行いました。

特に質疑なし

### (5) その他

今後の開催スケジュールについて、事務局から説明を行いました。

## 7 閉会

